

花

Aブロック全作品と講評

www.columnland.net

芽吹き

長くつらい冬は終わった

さあ、はじめよう

命の営みを

歩く

歩く

新しい気持ちで、歩く

きれいな桃色の花びらが舞っている
なにかなと思って見上げる

さあ、暗い過去なんて忘れて、歩き続けよう

歩く

汗をかきながら、歩く

いつの間にか一面に太陽が広がっている

自分と同じ背丈の、黄色い太陽

暑い日、まわりを見ながら思う

歩く

葉っぱの色が変わっていく中を、歩く

ふと、紫色が広がっているのが目に付く

背は低いけど、一面に広がっている

今は、ぎりぎりまだ歩き続けられる

歩く

寒くて、そろそろ歩けなくなる

そんな僕の前に、雪の白にまじった力強い白色

僕はそれに力をもらった、そんな気がする

雪解け水、線路のそばを流れている

いろんな場所を歩いた

いろんなものに出会った

そしてまた、

僕は新しい気持ちで歩く

花の悲鳴

やめてくれ

自分達の勝手な解釈で花びらを摘み取り、あげくの果てやつあたりをするのは

やめてくれ

身体の間々まで分析し、最大の個性である香りを奪っていくのは

やめてくれ

大自然から切り離し、身動きの取れない瓶に閉じ込めるのは

ぼくらは、生きているのだから

峰の上で咲いた花の話なんだ。聞いてみるかい？

僕はね、花が欲しかったんだ。普通の花じゃ駄目だ。強く、気高い、まさに花の王としかいえない、そんな花が欲しかった。

僕の求めるその花はどこにあるのか。分からなかった。誰も教えてくれなかった。たぶん、誰も知らなかったんだろう。

だから僕はいつも山に登った。綺麗な山だったよ。白く雪のつもった坂道、雪の中に埋もれた紅の果実、竹の発する緑のいろ。毎日花だけを考えていた僕さえ目をとられたぐらいだ。その美しさを見て、やはりここであの「花」が見つかるんじゃないかと思った。でも違ったよ。まあ、当然だ。適当に入った山で都合良く見つかるわけがない。普通に木とか鳥とか、そんなもんしかなかった。僕の特別な花は見つからなかった。そんな日々が4ヶ月ほど続いた。

ある日僕は泣き出してしまった。これまで頑張っても見つからないことが悲しかったし、悔しかったよ。悔しさのあまりに泣いてしまったってわけさ。風向きが変わるほど長い間、泣き続けた。泣き終わってから、帰ろうとしたけど、道が分からなかった。雪で足跡がなくなっちゃったわけだ。でも他に方法もなかったし、僕は歩き出した。どれぐらい歩いたんだろう？ 分からない。暮れて来る空に鳥が3匹飛んでいった。なぜだったんだろう、僕は鳥と同じ方向を見た。そして、また泣いてしまった。

ついに見つかったんだよ。僕が探してた「花」が。向こう側の峰にその姿を表していた。僕は走り出した。どんなに遠くてもかまわない。今見えてるあの花を手に入れる。それしか考えていなかった。いま顧みると、けっこう危ない選択だったけど、あのとき僕は、理性なんてぶっ飛んでいた。体中に活気があふれて、止まることなんかできるわけがなかった。

幸い、僕はあの花の咲いた峰の上までたどり着くことができた。険しい道だったけど、あのときの僕にはそんなことはどうでもよかった。いきなり現れた僕に驚いたのか、鳥が一匹飛び上がった。道に迷ったとき見た、あの3匹の鳥と同じ種類だった。その鳥は甲高い声で一度鳴いてから空の向こうへ飛んでいった。僕の視野から離れる直前、他の3匹と合流し、一緒の飛んでいった。

鳥の群れが完全に見えなくなつてから、僕は花を手にとった。その瞬間を待っていたかのようにつぼみが開いた。真っ赤な花弁が4つ、目の前で広がった。そう、これこそが僕の探してた花。そう感じた。悪いけど、僕にはあの時の感動と花の美しさを形容できそうな言葉がない。それほど感動的だったと言わなければならないけどね。

それからどうしたかって？ 恥ずかしいけど、なにもなかったよ。ただ跳喜んだけさ。声をあげて、跳ね回っただけ。何かが叶うつてのは、そんなことさ。何も変わらないし、何もおこらない。ただうれしと感じるだけだ。その花も数日前、枯れてしまった。でも、花が枯れてしまったって、あの瞬間の喜びがなくなるわけじゃない。その一瞬の嬉しさ、一時の喜びだけのために、僕はあがき、頑張った。なにも残らなくても空しくなんてない。その刹那の歓喜のために、僕はまた、なにかに力を注ぐだろう、精一杯頑張るだろう。他の皆もきっと、同じだろうし、

君もきっと、同じだよ。

「移住可能惑星は亜光速航行システムが出来て以来の悲願だ。しかし、過去の無人探査機三機、有人探査船二機の失敗がある。そこでスミス君、今回の任務はその原因の究明と、新移住区の開拓だ。特に後者は差し迫った課題である。心して任務にあたってほしい。」了解しました、ブルーム長官。」

こうして私は第六次外惑星調査隊にA級機関士として配属された。

「おお、これは！陸が緑で覆われているぞ！」

私たちは二日間の亜光速航行の末、目的の星にたどり着いた。ここまでスペースパイレーツの襲来もない……あれは単なる事故だったののだろうか？偶然が五回も重なるのだろうか。私は手放しでは喜べない。

「大気構成比率、窒素78%、酸素21%、アルゴン0.86%、二酸化炭素0.14%。」「自転周期23時間30分。公転周期8601時間。」「陸と海の表面積比6対5、平均気温15度。」「すごい！まさにアストロツインだ！質量まで同じなんて。」「

「金星のような大気改造も必要ない、今すぐにも移住できるぞ！」

「植物までいるなんて！」

惑星内に投入した調査機からのデータに同僚たちが色めき立っている……。それでもまだ私にはまだ引がかつている、先に沈んでしまったあの五艘の船たちが、『うまく行き過ぎている気がする。』気づくと私はそう呟いていた。

「地上に降りてみませんか？緑も見たいですし。」生物学担当のグリーンだった。私の呟きに気づいてはいないようだ。

「いいんじゃないか。しかし、誰が下に降りる？」

リーダーの惑星科学担当、ヤンド。

「私が『俺が』ほぼ同時だった。みんな怖いもの知らずのようだ。」

「ほぼ全員だな。しかし、スミスは行きたくないみたいだが？」

「はい、前回の失敗がまだ引かかって……。前の船はどこに行ったのでしょうか。」

「では、スミスは船の中からそれを調べてみてくれ。ほかは1時間後に出発だ。毒性物質は検出されていなが装備は準備しておくように。」

私は同僚たちの投下準備をしつつ、ロボットを使

い探し始めた。花畑の中に埋まっているはずの私たちの先人、白い宇宙船を……

1時間ほど調査を続けたとき、私は白い建物を見つけた。何かあると思い中を調べると、そこには巨大なスクリーンと、1つのボタンがあった。そのボタンを押し、映像が流れ出した。ちょうどそのとき、『どさっ』という音がして、見ると他のクルー全員が地面に倒れていた。私はスクリーンをロボットに任せ、地上に降り立った。すると、全員から、放射線障害が見受けられた。私には何が起きたか分からなかったが、船にクルーを収容し、ロボットを回収して船に戻った。そして、応急処置を施しながら、地球に帰ることを決めた。

しかし、こんな形で地球に帰ることとなるとは思わなかった。任務のどちらも遂行できず、クルーは意識不明、戦利品は途中でロボットに摘ませた花が一輪とは……

「苦労だった、スミス君。」

地球帰還後、ブルーム長官にそうねぎらわれた。

「すみません。何一つ任務を遂げることが出来ませんでした。」

「何、ひとは君の功績だよ。君が地球に帰って帰ってきたデータ、特にスクリーンの映像を検証するとこのようなストーリーとなるのだよ。」

そういつてブルーム長官は語り始めた。あの星には、かつて地球人のような高い知能を持った生命体があったこと、国という単位を作り始めたこと、そして、2つの国に統一されて、その二つが前回の戦争を始めたこと……

「この時期にあたったから前回までのプロジェクトは失敗したんだ。敵の勢力と間違えられて攻撃を受け破壊された。」

「でも、私たちは人には遭遇していませんよ。」

そういつと、彼はさらに語り始めた。住人が『核』を手にしたこと、そして、同時に星全体にそれを打ち込み世界が死に覆われたこと。生き残った人も、草も、動物も放射線障害で死んでいつてしまったこと……

「因みに、あの花は実は機械だった。彼らの最後の罪滅ぼしだったのだろう。放射性物質除去機能、光合成機能が付いていた。しかし、我々が早く着きすぎたということか……」

他のクルーは、到着直後なくなった。しかし今回生き残った私には次が待っているようだった。

花言葉

俺、花と会話できるんだ

えっ？

なんて言ってるかだって？

ちよつと待って…

「おしべが丸出しで寒い」ってさ

夏のあいっ

灼熱のなか しっかり大地に足をつけ

日が暮れるまでおてんとうさまとにらめっこ

元気な黄色は

今日もピンと立っている

そんな君を見ていると

僕は夏だと気付くのさ

だけど夏も終わりに近づくと

君の姿はしょんぼりしてる

にらめっこに負けたのだろうか

大丈夫

第二ラウンドがまだあるからさ

また来年も咲いておくれ

綺麗だからいいじゃねえか

「綺麗だな、おまえら。」

いつも来る男の人、私達を率直に褒めてくれるその人間が好きだった。

彼は私を見ていない。私達を見ている。そんな事は知っている。それでも彼が好きだった。

「おい、またこんな所で油売って、明日は大会だろう。準備は出来てんのか、太郎？」やたら派手なハッピを着た男がへらへらと笑いながら彼に声をかけた。彼は太郎という名みたいだ。

「ああ、十分だ。」

「またあのありふれた花火を上げるのか？」

「前と同じ型のやつをあげる予定だ。」

「たく、誰もそんなもん求めちゃいねーんだよ。今は個性の時代なの。こ・せ・い、わかる？ お前は腕があるのよ、勿体ねえよ。本当に」

ハッピ男の顔が真顔になる、彼がその表情で私たちを見に来る事が時々あるのを私は知っている。

「綺麗だからいいじゃねえか」

「そう思ってるのはお前だけ、他の皆は退屈してんの」

「そうかもな。」表情からでは太郎がどう思っているかは解らなかった。

嫁の土産だ、そう言つて私の隣の花を一本摘むと、ハッピ男は帰つていった。

一人になった太郎はこう呟く、「明日な、花火の大会がある、俺のは赤と黄色と白の真ん丸の花火で始まる。こつからでも見えるだろうからさ、見てやつてくれ俺の花を。」

轟音と共に花火大会は始まった、星形に爆発する物や、上昇と下降を繰り返す物、色々な花火が上がる。

爆発の音も高音から低音、長いものから短いもの、時には鳴らないものまで、本当に色々ある。真つ暗な夜空にカラフルな模様が突飛な音と共に彩られては

消えていく。

白い光線が真つ直ぐに夜空を昇り三重の円を爆発させた。と同時にドーンという音が空に染み入る。

花の理想が空にあつて、ここにいろよと大きな声を上げて、そして消える。

私はあんなに綺麗になれない、私も綺麗に消えたい、でも私には消えることすら叶わない。

太郎の花火と一緒に消えたかった。

「結局なあ、俺は花火師に向いてねえんだ。」べろべろになった太郎が私達に飛び込んでくる。

「誰も俺の花火なんて見ちゃいねえ、ただの自己満足だよ所詮。」

違う、私が見てる、太郎の花火が一番だった、そう言いたいのには叶わない。私は花だから。

「綺麗だからいいじゃねえか」

どこからともなく現れて、ハッピ男はそう言った。

「綺麗なだけじゃ意味ねえんだよ！誰も見ねえんだよ！」太郎が怒鳴る。

バキッ！ハッピが太郎を殴る。

「こいつらに謝れ、綺麗なだけのこいつらに謝れ。」

それだけ言ううとハッピ男は背中を向けた。

太郎はぼーと私を見ていた。

それから時々、太郎の花火を見かける。

私はあの花火みたいに綺麗に光る事は出来ない。ただ咲いているだけ、でも、それでいいんだ。

どんなに太郎が好きでも気持ちには伝わらない。それでいいんだ。

太郎は私を綺麗だと言ってくれる、見てくれる、私も太郎の花火を見て綺麗だと思う。それでいいんだと思う。

綺麗だからいいんだ。

いつの間になくなる

近所の交差点に置かれた花束

そこで誰かがなくなったのだろう

しばらくしてまた近くを通ると

花もなくなっていることに気づく

花をささげる人の心もなくなったのだろう

今頃は仏壇か、お墓に花が飾られているはずだ

しかし年月がすぎると

その花もなくなってしまうだろう

その花を飾る人の心が

なくなるのだろうから

花はいつでも売られているのに

人の心を託される準備はできているのに

土から水をくみ上げ

土から養分を吸収し

僕は日夜働き続ける

すべては花を美しく咲かせるために
あなた

でも、僕はあなたの姿を見ることはない…

「根っ」

六花

私は雪国の小さな村で生まれた

たまに旅人が家に泊まることがある

あるとき、旅人に花の話を聞いた

中央から花卉が開く美しい花の話だ

雪国に生まれた私は花を見たことがなかった

いつの日か旅人の言う美しい花を見てみたいものだ

そんな幼い頃の想いを胸に抱きながら、私は死期を迎えることになる

自らの死を自覚し、ふと窓から外を覗く

しんしんと降り積もる雪

外には白い六花の花が咲き誇っていた

ああ、こんなところに・・・

真っ白に花開く雪の結晶を目に焼き付けながら、私は静かに眠りについた

花屋の宣伝

サ
カ

サ
化
ツ
と

花
を

さ
か

サ
化
せ
よ
う
!

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	芽吹き	2 pt フォントの折目正しさが好印象な今週の表紙です。 さりげなく文字の大きさを変えたりしていて、ていねいな手仕事ぶりが光ります。 イチオシフレーズ：「さぁ、はじめよう」	10 位	0 sp
A02	歩く	21 pt 隠しアイテムに仰天です。そうかそうか、桜、ひまわり、萩、水仙。 四季をあざやかに、まとめていただきました。 歩く、という動きで全体をすっくり貫きつつ、四季折々の光景を経て、またスタート地点へ。 コンセプトとワザの双方がヒットしてのゴールド・メダルです、おめでとう!!! 特別賞：わかりにくいで賞（かけてるのがわかりづらい）花（佳）賞（さりげなく「さくら」「ひまわり」……という花が散らされていたこと）一位じゃなかったらかわいそうで賞（神）	1 位	3 sp
A03	花の悲鳴	7 pt やめてくれ！花たちからの異議申し立てが強いインパクトで伝わってきます。 たしかに花占いて、花の身にしてみれば非道だね、と共感できる語りかけでした。 イチオシフレーズ：「ぼくらは、生きているのだから」	4 位	0 sp
A04	峰の上で咲いた花の話なんだ。聞いてみるかい？	4 pt 人生にたとえての寓意、でしょうか。 花が開いたシーンの美しさ、枯れても喜びがなくなるわけじゃない、という悟り。いろいろ盛り込んで昔話テイストでふんわり結んで。 コンセプト、語り口の軽やかさ、まさにグッジョブ。	5 位	0 sp
A05	春の惑星	4 pt 緻密に組み立てたSFストーリー。アナザー地球がこの宇宙のどこかにあって、そこでは花が放射能を除去してくれてるんです、と。壮大な構想の力作ですが、ちょっと長かったか。 特別賞：よくがんばったね賞（長文おつかれさまです）	5 位	1 sp
A06	花言葉	3 pt 長文続きのあとは、むふふなオチ。 ロマンティックに入って、ユーモラスに落として。いい呼吸です。笑いの波紋をフロアに広げて、今週のイチオシフレーズ大賞をさらいました。おめでとう!! 特別賞：ユーモア賞（インパクトがやばい）度胸が半端ないで賞（その度胸にあっぱれ）しまいま賞（寒す	8 位	3 sp

		ぎるから) イチオシフレーズ：「おしべが丸出しで寒い」×3 「俺、花と会話できるんだ」
A07	夏のあいつ	1 pt11 位0 sp おてんとうさまとにらめっこのひまわりくん。 軽快な語り口に乗せ、しょんぼりで終わらず第二ラウンドの明るさを灯したのがすてきです。
A08	綺麗だからいいじゃねえか	0 pt12 位1 sp 花火に行った個性に◎。 江戸っ子の気っ風の良さが伝わってくる語りに乗せ、綺麗にリクツは要らないぜという主張もしっかり伝わってきます。 前半に長文が多かったせいで、読み込んでもらいにくかったようですが、ぜひまた渋い味わいの作品をお待ちしています。 特別賞：努力賞（綺麗だからいいじゃねえか） イチオシフレーズ：「綺麗だからいいじゃねえか」 「綺麗だからいいんだ」
A09	いつの間になくなる	20 pt3 位0 sp 亡き人に寄せる思いが咲いては消え、咲いては消え。花はいつでもある。思いはいつしか消えゆく。交差点での一コマ、ふっと考え込まれます。その波紋がみんなの心にひたひたと届いてブロンズ・メダルでした、おめでとう!! イチオシフレーズ：「人の心を託される準備はできているのに」
A10	根っこ	21 pt1 位1 sp あ、そうだよね、と大納得の根っこなキモチ。いちばん、がんばって支えてくれた人には晴れ姿を見ることができない。 何だか、せつない真実です。 けれども、こうやって注目してもらえてゴールド・メダルを獲れる日もあるのです。おめでとう根っこ君!!! 特別賞：美しいで賞（美しいから） イチオシフレーズ：「でも、僕はあなたの姿を見ることはない」「花（あなた）」
A11	六花	3 pt8 位2 sp 昔話風のしっとりした語り口に浸りました。雪の冷たさのなか、六花という造語が、個性的に効いてますね。 特別賞：3.5位賞（最後まで悩んだ）感動で賞（せつなくて、感動したから）
A12	花屋の宣伝	4 pt5 位4 sp ナイス思いつき！ サカサカと爽やかに言い切ってインパクト大な今週の裏表紙でした。 花屋さんらしく咲いた咲いた♪最多特別賞が咲きました。そして、イチオシフレーズ大賞タイもゲットです。おめでとう!! 特別賞：ギャグ賞（ネタっぽい）アイデア賞（「サ化ッ」とのインパクトが強すぎ!!）商店街の花屋で賞

(ださかわいいから) 横書きじゃ伝わらないで賞(縦書きだからこそ伝わる。)
イチオシフレーズ:「サ化ッと」×4

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	花占いの心理。	6 pt レイアウトと心理が、とてもうまくシンクロしています。 恋するオトメゴコロ、きゅんとしぼって入魂のレイアウトでの今週の表紙です。	7 位	0 sp
B02	たんぽぽ	4 pt 長文ストーリー、ラストうまくまとめてタイトルにつながりましたね。 お約束展開ながら、その工夫がユニークで光ります。 イチオシフレーズ:「タイトルは、もちろん」×2	9 位	0 sp
B03	落ち込んで	15 pt なかなかシュールな、人間というものの残酷さ、ワンカットですぱり切り取って大インパクト。 落ち込むどころか、ぐいぐい登ってゴールド・メダルを力強く掴み取りました。その思い切りの良さに惚れ惚れです。おめでとう!!! イチオシフレーズ:「彼の首は千切れたが、僕の心は吹っ切れた。」×3	1 位	0 sp
B04	近いけど実は結構花れてて。	2 pt ラスト近くの「位相変換」で、あ、そういうことだったのと納得。 このもっともらしい語り口で、みごとにダメしていただきました。うまいうまい。 文章そのものとしては完成の域かと。あとは話題の好き嫌いだけ。 イチオシフレーズ:「位相変換の都合により彼女とは情報端末を介してしか出会うことができない」「女友達との意思疎通は……お互いの気持ちが通じ合うのだと。」	12 位	0 sp
B05	春一番	6 pt 蕾から花へ。コミカルなアニメーションを見ているような楽しい演出です。 セリフと動きで見せつつ、ラストで一句という組み立ても成功しています。ワザ師だなあ。	7 位	0 sp
B06	母の日	12 pt あふれる激情が墓標に注がれます。 まさに鮮烈そのものの赤をくっきりとクローズアップして、言いたかったのに言えなかった言葉が、せつなくラストに響きます。ムダひとつないスピード展開でブロンズ・メダルへ駆け上がりました、おめでとう!! 特別賞:色が違うで賞(お供えの花って白じゃね!?)	3 位	1 sp
B07	真っ赤な花畑	13 pt こちらの赤は彼岸花。 臨死体験。白いベッドとの対比で、くっきり印象的な仕上がりです。 あの世という意表を衝いた場面設定がヒットして、シルバー・メダルの栄冠です。おめでとう!!	2 位	0 sp
		4 pt へただけ残ったカラッポのお弁当箱。友人とまと君の赤	9 位	2 sp

B08	花よりトマト	いほっぺ。ディテール描写のじょうずな作者さんです。もちっと読みやすいフォントだともっと映えたのに、そこが残念。そして、幸平くんの謎！？ 特別賞：トマト嫌いの気持ちを表現したで賞 誰ですか賞（後ろから3行目の幸平が誰なのか気になったから。）
B09	陽だまりの部屋	3 pt 11 位 0 sp ちいさな一輪が机上を明るく照らしてくれます。さりげない幸せ、まさに陽だまり気分をそのままふわりと届けていただきました。 イチオシフレーズ：「薔薇だったら、自分の机には置けなかった。」「午後の最後の西日を受けて、そこだけ時間がゆっくり流れる。」
B10	入学式	11 pt 4 位 2 sp おー、すごい！ エコーのように敗者の叫びがこだまします。敢えて同じフォントにしたことで、今日の勝者は明日の敗者、そんな連続性まで表現しようとしたのかも？ 特別賞：対賞（称）（幸と不幸の人、2者の対称がひじょうにすばらしい。）コクうま賞（ほかの作品に比べてコクがすごくあったから。）
B11	初恋	7 pt 5 位 0 sp ぐしゃり。潰してしまえば、ほらもう僕だけのもの。黒い独占欲が、画家というシチュエーションにしたことで、とても自然にリアルに伝わってきます。こわいなあ。 イチオシフレーズ：「ぐしゃりと君を踏み潰す。」「これできみは、ぼくだけのものだね。」
B12	ハックション	7 pt 5 位 10 sp ラストは盛大に吹き飛ばして。 まあたしかに不条理ですよ。花は花の世界だけで営業してほしいもんだ、と切実な願いとともに今週の読み納めです。 身近な話題に思い切りの良さが加わって人気集中、「花粉賞」5つなど、なんと圧勝の最多特別賞でした。今週のイチオシフレーズ大賞のおまけつきです。おめでとう!!! 特別賞：レイアウト賞（レイアウトが良い。）ウィキペディア見ま賞（きっと書いてあるから。）共感できるで賞（花粉症の人多数）花粉賞×5（インパクト大/共感/ゴロが良い）ズズズ（注鼻をすする音）賞（花粉症の気持ち、分かるから）ハック賞（人気） イチオシフレーズ：「チーン（注鼻をかむ音）」「ハックション」×3